

体育科 学習指導略案

日時	令和6年10月31日(木) 10:20～11:05		場所	体育館		
指導者	** ***(T1)、** ***(T2)、** ***(T3)、** ***(T4)、** ***(T5)、 ** ***(T6)、** ***(T7)					
単元名	「器械・器具を使つての運動②～マットうんどう～」					
本単元の 目標	・教師の支援を受けながら、楽しくマットを使つての基本的な運動をすることができる。 （知識及び技能）〈2段階〉 ・マットを使つての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。 （思考力、判断力、表現力等）〈2段階〉 ・簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、マットを使つての基本的な運動をしようする。 （学びに向かう力、人間性等）〈2段階〉					
単元の 指導計画 （6時間 扱い） 本時は 第5時	次	時	学習内容・活動	評価の観点（○をつける）		
				知・技	思・判・表	主体的
	1 「マット うんどうを しよう」	1 「マット うんどうを しよう」	オリエンテーションを通して学習計画、事故防止について知り、どんな転がりがあるのかを知る。	○		
		2 「いろいろな わざをやってみよう」	マットの上での様々な転がりに取り組む。	○		
	2 「マット うんどう はっぴよう かいを しよう」	3 「はっぴようしたい わざをきめよう」	マットの上での様々な転がりに取り組み、発表会で見せたい技を決める。		○	
		4 「はっぴようしたい わざのれんしゅうを しよう①」	発表会に向けて、自分で選んだ技の練習を行う。			○
		5 「はっぴようしたい わざのれんしゅうを しよう②」 （本時）		○		
		6 「マットうんどう はっぴようかい」	自分で選んだ技の発表を行い、できるようになったことや感想を伝え合う。		○	

〔本時の指導〕

1 本時の全体目標

「教師の支援を受けながら、マットの上で自分で選んだ転がりをすることができる。」【知識及び技能】

2 本時における学習グループの実態

- ・本グループは9名(男子5名、女子4名)で構成されている。
- ・マットを使つての運動に関して、前転がりができる児童が1名、前転がりはできるが手や頭の付き方に課題がある児童が2名、前転がりの経験がほとんどない児童が6名と実態差がある。後ろ転がりに関しては経験がほとんどない。また、回転する動きに対して不安感や恐怖感をもつ児童もいる。ゆりかごや丸太転がりでは、背中をマットにつけ、転がることに慣れ、楽しみながら取り組める児童が多い。
- ・体を動かすことが好きな児童が多い。動きにぎこちなさがある児童に対しては運動のポイントや改善点を視覚的に示すことで、動きを少しずつ習得することができる。
- ・見通しがもてる活動であれば自分から進んで取り組むことができる児童が多い。1名は活動の場から離れてしまうこともあるが、活動の見通しがもてるような視覚支援があれば、再度取り組むことができる。

3 展開 ※形態の表記は 全体:全、グループ:グ、個別:個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容	指導の手立て(各Tの役割等) ※□は評価 ☆ICT活用
全 1	1 始めのあいさつをする。	・T1は、「背中ピン。」と言葉かけをして、正しい姿勢で挨拶ができるようにする。
全 3	2 準備体操をする。 ・ラジオ体操	・T1が体操の模範を示すことで、動きが分かるようにする。 ・T2以下は「先生の動きをよく見ながらやってみよう。」などと言葉掛けをすることで、教師の模範をよく見ることができるようになる。
全 4	3 本時の目標や学習内容を知る。 えらんだころがりわざに チャレンジしよう。	・T1は活動場所や内容をホワイトボードに示し、児童の顔写真を貼ることで、活動の見通しをもてるようにする。 ・T1は「発表会で発表をするために、今日は決めた転がり技にチャレンジしていこう。」と話すことで、本時の活動に対する目的意識をもつことができるようにする。
全 29	4 活動をする。 (1)チャレンジタイム① ・選んだ技の練習をする。 (2)たしかめタイム ・演技の確認をする。 (3)チャレンジタイム② ・選んだ技の練習をする。	・動きのポイントがイラストで示された「チャレンジシート」を個別に用意することで、転がる際に意識することが分かるようにする。 ・ロイター板を使用して傾斜のあるマットと平らなマットの2種類の活動場所を設定することで、個の実態に応じた活動ができるようになる。 ・マットに印をつけることで、マットと接地するときの手の位置が分かるようにする。 ・T5はAに対して、小さいボードやアプリを使って活動内容を手元で提示することで、活動の見通しがもてるようにする。 ・T6はBに対して、補助具を調整することで、自ら転がるようにする。 ☆動きのポイントが示された模範演技動画を用意し、いつでも確認できる場を設けることで、動きのイメージをもつことができるようにする。 ☆T2以下は、たしかめタイムの際にスローモーション再生機能や連続撮影機能を使用しながら個別に実際の動きを提示する。改善点があれば、模範を示したり、手添えをしながらアドバイスしたりする。 ・たしかめタイムの後に、再度活動する時間を設けることで、自ら動きのポイントを意識して転がるようにする。 ・T2以下は、動きができるようになった際、「チャレンジシート」にシールを貼り、即時評価をすることで、活動への達成感を実感できるようにする。
全 7	5 活動の振り返りをする。	☆即時評価をした「チャレンジシート」や動画等を提示しながら振り返ることで、本時の目標や個別の目標を達成できたか確認する。 ・できるようになったことを大いに称賛することで活動への満足感や達成感を味わえるようにする。 教師の支援を受けながら、マットの上で自分で選んだ転がりをしている。【知識・技能】[観察]
全 1	6 次時の活動を確認し、終わりのあいさつをする。	・T1は、「背中ピン。」と言葉かけをして、正しい姿勢で挨拶ができるようにする。